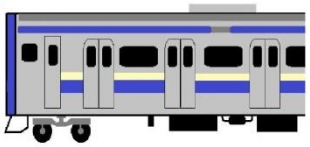
きずな

NRU

津田沼分会
No.50
2023・7・10
発行責任者
鈴木　浩
編集・教宣

台風・事故、また事故



前号でも触れましたが6月2日、台風の影響により各方面で深夜まで多大な影響が出ました。このような輸送混乱時に必要なのは「人」です。特に一人勤務駅では切実に猫の手も借りたいのが本音です。

ＪＥＳＳの支店に応援を求めたところ、帰ってきた返事は「管区に連絡してほしい」でした。本来なら台風のようなある程度対策を立てられる災害時には支店が陣頭指揮を執って然るべきですが現場のことは現場で解決をと言う姿勢のようです。

委託化以前はＪＲから応援社員が派遣されてきましたが、「駅業務に特化」を謳い文句に発足し、「人」のいない駅運営を先取りする委託会社には輸送障害時に現場に派遣する要員もいないのが現状です。支店から振られる管区にしても同様で結局は現場社員の頑張りに支えられています。

台風だけではなく船橋駅の快速線で6月8日・13日と立て続けに人身事故が発生し、隣接する緩行線（各駅停車）も一部区間で運転を見合わせました。いつもと同じ要員で運転見合わせ等、いつもと違う事象に対応するのは肉体的にも精神的にもかなりの負担がかかります。

現場では主勤務地以外への助勤で勤務を回していますが、支店をはじめ管区もいざという時、現場を手助けできないというのはどういうことなのか？　窓口に社員を置かず、リモートでの対応のために支店勤務の社員を増やしましたが、何かあった際の対応は結局現場任せ・・・。

ＪＲが運営する駅より委託駅のほうが多くなっている現在、本当にサービスのことを考えるならいざという時に要員不足の駅へ応援が出せる体制を作り上げるのが重要ではないでしょうか？

モバイルSuica定期券・・・その光と影

JRは利用者の都合などお構いなしにみどりの窓口を猛烈な勢いで閉鎖しています。「その代わりに」と言わんばかりにスマートホンに定期券を取り込む「モバイルＳｕｉｃａ」を推し進め、中学・高校生にもその範囲を広げました。

良し悪しは別にして「スマホ」を手にしたまま移動することが多い人たちにとっては、そのまま改札機をタッチするモバイルＳｕｉｃａは便利かもしれません。しかしながら便利なものには必ず不便さもあり、バッテリーが切れると定期券を購入していても運賃を支払わなくてはなりません。端末の故障や紐づけているスマートウォッチのバッテリー切れも同様です。

クレジット購入の払戻しや変更はみどりの窓口でしか対応ができません。アプリ上で利用者自身が行うのは会社にとって都合がいいかもしれませんがカード型のＳｕｉｃａには無い不都合もしっかりと周知するのは、残ったみどりの窓口が数えるほどのため仕方なくモバイルへ移行する利用者への会社としての責任のはずです。

◎　次回職場集会
8月7日地本会議室

千葉地本
HP